

1. マクロ経済学の基本

マクロ経済で習うこと

市場	生産物市場	貨幣市場	労働市場
供給	生産要素 資本、労働	マネーサプライ	労働者 (失業率)
需要	消費・投資	貨幣需要	企業
価格	物価 (消費者物価 卸売物価)	利子率 (国債利回り)	賃金 (雇用者所得)

1. 経済学とは？人々がどうすれば豊かになるのかを考える学問

サミュエルソンの定義

「経済学とは、

- ① 複数の代替可能な希少な生産資源をいかに使うか
- ② 時間を通じて種々の製品をいかに生産するか
- ③ 現在と将来の消費のためにどのように分配するか

について、貨幣を使用し、あるいは使用せずにいかなる選択を行うかの学問」

ミクロ経済学（微視的） 森を歩いて木や草を調べる。虫の目。

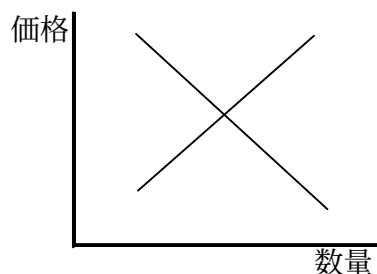
マクロ経済学（巨視的） 航空写真で森をみる。鳥の目。

アドバイザー面談に類するものがミクロ的アプローチ。学生一人ひとりの成績の良し悪しがそれぞれ把握できる。ただ、「今年の学年は昨年の比べて全体としてどうですか？」と聞かれても、全員面談をしないと（したとしても）分らない。

マクロ的アプローチは、成績が悪い学生、良い学生いろいろいるが、平均としてどうかを考える。たとえば、昨年度と今年度のテストの平均点を比較して上昇していれば、今年度の学生は平均的に見て優秀だということができる。

「平均点」に当たるものが、経済統計となる。

2. 需要、供給、市場



需要＝人間の欲望から発する おいしいワイン、楽しい食事、優れた音楽

供給＝その欲求を満たすための努力

市場＝需要する人と供給する人がモノを交換する場所

価格＝需給の状況を教えてくれるシグナル

均衡＝みんなが満足する点

アダムスミス「水とダイヤモンドのパラドックス」

- ・パン屋を始めるとする。いったいいくらで売ればいいのか？
交点が2個 100 円の場合から考える
- ・「ロビンソンクルーソー」の世界との違い
1 人の場合は市場はいらない。2 人の場合、…
- ・何でも、需要、供給に分けて考えるのが経済学 教育、結婚、出産…

3. マクロ経済学での需要、供給、市場

①生産物市場 モノ

価格 物価（消費者物価指数など）

生産 GDP（国全体の生産）

需要曲線 消費、投資

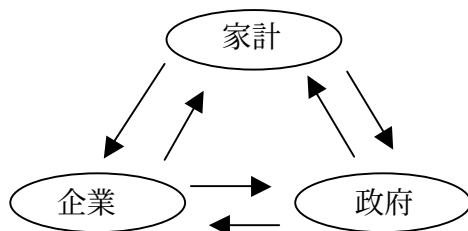
供給曲線 生産要素→生産するのに使うもの。労働力、資本、土地など。

②貨幣市場 カネ

③労働市場 ヒト

4. 経済主体（経済学の登場人物）

主体＝ある同じ性質をもったグループ



家計 消費する主体

企業 生産する主体

政府 国の代表者

5. 政府の必要性

- ①「市場の失敗」公園、道路、環境問題
- ②「再分配」 所得の違いは努力か運か？
- ③「景気」の調整

マクロ経済学の関心事

- ・失業
- ・インフレ スタグフレーション（泣きっ面に蜂）

★財政政策は、減税や公共投資など、政府がお金を使う政策。

★金融政策は、金利を動かしたり、お金の供給量を変えたりする政策。

6. 経済学の仮定

経済学の理想＝社会全体を一つの法則で表したい。

→A 子さんが 10000 円もらったとき、いくら使って、いくら貯金するか（さらには何を使うか）を理論的に説明したい。しかし現実には人々の行動は読みにくい…

そこで、モデルケースを作る。

→平均的な人（または多くの人）が行動するような法則を作り出す。

分析の基本

家計＝制約された所得の中で、効用を最大化する

企業＝利潤を最大化する

結婚の経済学

需要＝夫 供給＝自分 市場＝さまざまな場所

与えられた制約（自分の魅力）の中で効用（幸せ）を最大化するように相手を決める。

経済学史

①古典派

アダムスミス(1723-90) イギリスの法哲学の教授

著書 () 本題は、『諸国民の富の本質と原因に関する研究』

キーワード ()

「私達が食事にありつけるのは精肉店、酒屋、パン屋の博愛心のおかげでなく、彼らの自己利益への配慮のおかげだ」『国富論』(1776)

- ・ 富とは、貨幣（金銀）ではなく国民が年々に消費するいっさいの生活必需品や便益品
- ・ 文明国のもっとも貧しい人でさえ、未開人の国王より多くの消費財を消費している
何が原因か？ ()

→ピン・マニュファクチュアのたとえ

もし職人が 1 人だけでピンをつくるなら、一日一本のピンを作るのも容易ではない。しかし、10 人の労働者が分担して働けば、1 人当たり 1 日 4800 本ものピンを作ることができる。

- ・ グループ活動をなぜ行うのか？

1 人でやるよりも、大勢でやった方が成果があがるから。

リカード(1772-1823) 証券会社出身 貿易自由化賛成

支配的な理論 重商主義（輸出で稼いで、輸入を制限する）

理論 () 『経済学および課税の原理』(1817)

生産物 1 単位を作る のに必要な労働		国	
		英国	ポルトガル
生産物	布地	100 人	90 人
	ワイン	120 人	80 人

布地の価値＝ワインの価値

- ・ 英国とポルトガルが布地とワインを 1 単位ずつ生産すると何人必要か？
- ・ 英国が布地、ポルトガルがワインをそれぞれ 2 単位生産し、布地とワインを 1 単位ずつ交換すると、何人必要か？

マルサス(1766-1834)牧師 貿易自由化反対

貧困や悪徳は社会制度から生ずるのではなく、人口法則の結果。

著書（『』（1798））

人口は等比級数的に増えるが、食料は等差級数的にしか増えない。

人口 = 1 → → →

食料 = 1 → → →

供給不足を心配

②ケインズ v s 新古典派

ケインズと新古典派の大胆なイメージは次の感じ。

ケインズ	公平	エリート意識	政府	失業は困る	情緒的
新古典派	効率	弱肉強食	市場	失業はない	理性的

	需要 or 供給	政府 or 市場	財政政策 or 金融政策
ケインズ			
新古典派			

大学教育に置き換えてみると？（新古典派的解釈）

学生は授業料を払って教育サービスを受ける。

授業を受けないのは、学生の実任。

授業についていけない学生に合わせると進行が遅れる。

単位が取れないのは、能力がないのではなく、自発的にとらない。

ケインズ（ケインジアン）

民間部門は不安定＝市場原理だけではだめ＝政府のコントロールが必要

恐慌の原因＝（有効）需要の不足 → 非自発的失業（市場にまかせるだけでは無理）

解決策＝消費や投資など需要を増やす

新古典派

民間部門は安定的＝市場に任せれば良い＝政府は小さいほうが良い

恐慌の原因＝政府の介入

マネタリズム フリードマン

政府はなにもせず、貨幣供給量を一定にすればよい。

貨幣供給量（マネーサプライ）→ GDP

「貨幣供給量を安定的に増やせば、GDPも安定的に増える」

自然失業率→ 政府には財政政策では除去できない失業がある。

サプライサイド経済学

企業が活発に活動できるような政策が重要

減税、「小さな政府」

合理的期待形成学派

人々は合理的に行動しているので、政府の政策は無駄に終る。

Q. マネタリストとは何か？マネタリズムが良く分からない。

A. マネタリーとは貨幣のこと。物を買うときはものと反対にお金が動く。普通はものの動きに注目するが、マネタリストはお金の動きに注目する。

「～ist」は「～主義者」という意味。直訳すれば、貨幣主義者。

③ **マルクス**

著書（ ）

④ **シュンペーター**

キーワード（ ）

企業の役割は、馬車の生産台数を増やすことではなく、自動車を作り出すことだ。

よくある質問

Q. 経済学にはいろいろな考えがあり、どの考えがいいのでしょうか？答えは一つではないのかな？難しい。

とくに答えはありません。趣味とか思想とかの問題です。そのとき習っている先生の影響とか。効率（新古典派）と公平（ケインズ）と考えるとどちらが好みかわかるかもしれません。短期的にはケインズ、長期的には新古典派が正しいとも言われています。

Q. 市場経済派か政府介入派か分かれてしまっているけれど、なぜ中立派（というより、両方のいいところをとろうとする派）がないのだろうか。弱点を補ってやった方が不況の脱出はできると思うのに。

政府はそういう感じで取り扱っていますが、「日和見的」とも言われています。

Q. なぜケインズ経済学が経済学の基礎になったのですか。

ケインズはマクロ経済学の創始者。それまでは個人単位で経済学の枠組みを考えていたが、国単位で考える方法を編み出した。

Q. 投資って政府だけでなく民間の企業もやるのですか。

投資はだれでもやります。あるお金の使い道には、消費と投資があります。消費は使うこと自体で満足感をえるもの。投資は、使うことで将来の収益を期待するものです。

証券投資＝株に投資して将来値上がり益を狙う。

公共投資＝道路や橋を作って、国民みんなの利益になるようにする。

設備投資＝工場や店舗を作って、より儲かるようにする。